

病院とスポーツ

第31回



～医療現場の絆を紡ぐ～

医療現場では以前から「縦割り組織」の弊害が指摘されてきた。

部署間でのヨコの連携を密にし、いかに風通しを良くするか。

連載では、スポーツを通じて職員間の絆を深め、組織強化などに役立っている病院を取り上げる。

就業前2時間の練習 厳しい鍛錬のたまもの

医療法人社団東光会

戸田中央総合病院
(埼玉県戸田市)



日々の努力に惜しまぬ支援 トレーニングセンターも整備

戸田中央総合病院ローイングクラブには現在、選手10人が所属している。クラブチームのため、同院や関連する事業所以外に勤務する選手も受け入れている。

メンバーのうち、▽小林雅人＝戸田中央総合病院総務課・コーチ兼任、▽根本拓海＝戸田中央リハビリテーション病院医事課、▽柿島麗＝戸田中央産院医事課、▽植竹寛弥＝TMG本部人事部ウェルビーイング推進課、▽渡邊花穂＝同経営支援部経営支援課、▽来海泰志＝同総局長室・副務兼任、▽高野亮介＝株式会社ふれあい広場、▽中曽根祐太＝株式会社TLC総務課、▽中川奈穂＝株式会社日本白十字社プロキュアメント事業部——の9選手が同院や関連する事業所に勤務。一方、坂口宥太選手は外部企業に勤める。このほか、野中誠司主務(戸田中央産院総務課)、勝又晋一アドバイザー(TMG本部総務部広報・WEBマーケティング推進課)がチームをサポートする。

勤務先や所属部署が異なっても、それぞれ戸田市内であることは共通している。職場や居住地と練習場所の戸田漕艇場が近接しているのは強みで、選手は「練習に集中できる」「のびのびと競技に打ち込める」と口をそろえる。もちろん、各種大会で好成績を収められる理由はそれだけではない。戸田漕艇場で行う早朝練習は月～土曜日、就業前の午前5～7時までの2時間。日照時間が短い冬季などは、陽が昇りきる前に練習が終わることも珍しくない。こうした日々の厳しいトレーニングの積み重ねが強さの原動力だ。「タイムを競うローイングは結果が数値で明確に出ます。きちんと



国際舞台や国内各種大会での活躍を誓う戸田中央総合病院ローイングクラブの選手

と努力した分が結果に反映され、ごまかしが利かないとも言えます」。そう語る田立健太監督の教えを忠実に守り、練習に精進する選手の頑張りによって病院側もサポートを惜しまない。

シーズン中は原則週に4日、仕事を午後1時に終え、練習時間に充てることができる。2019年には、漕手の漕力を測定するローイングエルゴメーターなどを備えた屋内施設「TMGトレーニングセンター」が完成し、チーム力の底上げにつながっている。藤野浩一郎部長は「田立監督らが現役だったころはフルタイムで仕事をし、その前後に練習していました。先人の努力によって練習環境は少しずつ充実、改善しています」と強調する。

選手たちもそこは十分理解している。海の森水上競技場(東京都江東区)で今夏行われる第102回全日本ローイング選手権大会では男子フォア、女子ダブルスカルで優勝した前回大会以上の好成績に照準を合わせる。